



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月12日

上場会社名 株式会社ヒガシマル 上場取引所 福  
 コード番号 2058 URL <http://www.k-higashimaru.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 紘一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部長 (氏名) 木通 昌生 (TEL) 099-273-3859  
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	9,026	12.2	628	27.7	689	29.6	383	△14.4
26年3月期第3四半期	8,042	21.1	492	35.6	532	31.4	447	36.8

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 380百万円(△17.7%) 26年3月期第3四半期 462百万円(△2.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	81.49	—
26年3月期第3四半期	95.17	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	12,305	5,677	46.1
26年3月期	11,067	5,333	48.2

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 5,677百万円 26年3月期 5,333百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	8.00	8.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,626	8.4	470	8.9	499	8.6	287	△33.4	61.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	27年3月期3Q	4,746,000株	26年3月期	4,746,000株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	40,889株	26年3月期	40,889株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	27年3月期3Q	4,705,111株	26年3月期3Q	4,705,111株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、四半期決算短信 [添付資料] 3 ページ、「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による経済支援策の効果から、企業収益や雇用・所得環境など緩やかな回復の動きが見られるものの、消費税増税に伴う個人消費の低迷が長期化する懸念や急激な円安進行から企業収益は産業間やその規模により格差があり、先行き不透明な状況で推移いたしました。

こうした環境の下、当社グループは市場動向を見極めながら積極的な販売活動を展開するとともに、生産性の効率化、材料コスト削減及び低採算商品の見直しに努め、売上成長を模索しながら利益重視の経営に取り組んでまいりました。一方、事業領域の拡充や販路拡大など攻めの体制を推し進めるなか、平成25年7月に子会社化した株式会社向井珍味堂の業績が通期計上となっております。また、水産事業のさらなる伸長を図るため平成26年11月に永屋水産有限会社（東京都中央区）を子会社化（100%子会社）いたしました。

なお、永屋水産有限会社は、第3四半期連結会計期間末（平成26年12月31日）を支配獲得日とみなして処理しているため、同社の業績は当第3四半期連結累計期間に含まれておりません。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は90億26百万円と前年同期と比べ9億84百万円（12.2%）の増収、営業利益は6億28百万円と前年同期と比べ1億36百万円（27.7%）の増益、経常利益は6億89百万円と前年同期と比べ1億57百万円（29.6%）の増益、四半期純利益は特別利益の発生がなかった（前年同期は特別利益「負のれん発生益」92百万円）ことや法人税等が増加したことから3億83百万円と前年同期と比べ64百万円（14.4%）の減益となりました。

なお、養魚用配合飼料の需要は、養殖魚の成長過程に応じ、摂餌が旺盛になる夏から初冬までが多く、水温が低下し餌食いが鈍くなる冬から春は少なくなるという季節的変動があります。したがって、第2四半期連結累計期間及び第3四半期連結累計期間において売上高及び売上原価が大きく増加する傾向にあります。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

## ①水産事業

水産事業におきましては、中南米の輸入魚粉マーケットは、中国を主体に新興国の引き合いが多く、魚粉価格が高値圏取引で推移していることや円安によるコスト増も懸念される状況となりました。

このような状況のなか、低採算商品の生産・販売の見直しを進め、ハマチ飼料類及び雑魚飼料類は養殖飼育環境が良好であったことや生産物相場も前年度と比べ高値取引であったことなどを背景に、既存顧客のシェアアップ及び受託生産販売が順調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。マダイ飼料類は一昨年の上昇前駆け込み需要の反動減や価格競争等で他社メーカーに流出したことなどから売上高は前年同期を下回りました。また、マリンテック株式会社（当社100%子会社、愛知県田原市）の売上高は、ヒラメ・アユ種苗の販売が低調であったことなどから前年同期を下回りました。

その結果、売上高は61億68百万円と前年同期と比べ5億55百万円（9.9%）の増収となりました。セグメント利益は6億20百万円と前年同期と比べ1億67百万円（37.1%）の増益となりました。

## ②食品事業

食品事業におきましては、消費税率引き上げに伴い食料品の最寄品を中心に消費者の節約・低価格志向がさらに高まっていることに加え、原材料価格及び輸送コスト等の上昇から厳しい事業環境で推移いたしました。

このような状況のなか、テレビコマーシャル、試食宣伝及びキャンペーンなど積極的な販売活動に努めた結果、主力商品の即席めん類及び皿うどん類の売上高は前年同期を上回りましたが、乾麺類（うどん・そば・そうめん）は低調に推移いたしました。

コスモ食品株式会社（当社100%子会社、横浜市磯子区）は、定番商品の育成及び新商品の開発・販売に努めてまいりましたが、売上高はほぼ前年同期並みに推移いたしました。また、平成25年7月に子会社化した株式会社向井珍味堂（当社100%子会社、大阪市平野区）の香辛調味料等の販売が通期貢献したこともあって、売上高の増加に寄与しております。

その結果、売上高は28億58百万円と前年同期と比べ4億28百万円（17.6%）の増収となりました。セグメント利益は2億42百万円と前年同期と比べ10百万円（4.0%）の減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ12億38百万円増加し、123億5百万円となりました。これは、主として受取手形及び売掛金が12億54百万円増加したことなどによるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比べ8億95百万円増加し、66億28百万円となりました。これは、主として買掛金が6億87百万円、短期借入金が4億48百万円増加しましたが、長期借入金が2億92百万円減少したことなどによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比べ3億43百万円増加し、56億77百万円となりました。これは、主として利益剰余金が3億45百万円増加したことなどによるものであります。

なお、自己資本比率は前連結会計年度末と比べ2.1%減少し、46.1%となりました。第2四半期連結累計期間及び第3四半期連結累計期間において売上高及び売上原価が大きく増加するという季節的変動により、売上債権及びたな卸資産等の流動資産並びに仕入債務がいずれも増加することから、自己資本比率は低下する傾向にあります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、当社グループの事業に係るリスクの発生、運営上の重要な契約等の締結、その他当社グループの将来の業績に影響を与える可能性のある事象が発生した場合は、業績予想を見直す可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結累計期間において、永屋水産有限会社の発行済株式の全てを取得したことに伴い子会社となったため、連結の範囲に含めております。

なお、みなし取得日を当第3四半期連結会計期間末としているため、当第3四半期連結累計期間は貸借対照表のみを連結しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,187,787	2,240,235
受取手形及び売掛金	1,379,581	2,634,463
有価証券	82,445	96,632
商品及び製品	443,260	420,651
仕掛品	118,076	83,839
原材料及び貯蔵品	1,149,748	1,086,858
その他	187,534	188,472
貸倒引当金	△7,168	△18,584
流動資産合計	5,541,265	6,732,569
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,225,575	1,194,791
機械装置及び運搬具(純額)	650,800	730,718
土地	2,093,519	2,091,642
その他(純額)	61,171	55,297
有形固定資産合計	4,031,066	4,072,449
無形固定資産		
のれん	409,313	464,611
その他	29,777	29,396
無形固定資産合計	439,091	494,007
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,117,800	1,046,750
貸倒引当金	△62,100	△40,458
投資その他の資産合計	1,055,699	1,006,291
固定資産合計	5,525,857	5,572,748
資産合計	11,067,122	12,305,318

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	397,260	1,085,191
短期借入金	1,976,562	2,425,536
未払法人税等	130,361	92,139
賞与引当金	114,518	52,558
その他	318,514	492,921
流動負債合計	2,937,218	4,148,346
固定負債		
長期借入金	2,135,880	1,843,708
役員退職慰労引当金	396,664	408,049
退職給付に係る負債	71,846	71,848
その他	191,553	156,244
固定負債合計	2,795,943	2,479,849
負債合計	5,733,162	6,628,196
純資産の部		
株主資本		
資本金	603,900	603,900
資本剰余金	458,400	458,400
利益剰余金	4,201,484	4,547,244
自己株式	△28,968	△28,968
株主資本合計	5,234,815	5,580,575
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	59,787	92,838
繰延ヘッジ損益	39,357	3,707
その他の包括利益累計額合計	99,144	96,545
純資産合計	5,333,960	5,677,121
負債純資産合計	11,067,122	12,305,318



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	8,042,217	9,026,339
売上原価	6,274,540	7,091,256
売上総利益	1,767,677	1,935,082
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	316,297	272,533
貸倒引当金繰入額	31,999	6,393
給料及び賞与	344,970	386,767
賞与引当金繰入額	15,202	19,571
役員退職慰労引当金繰入額	10,669	12,085
その他	556,504	609,614
販売費及び一般管理費合計	1,275,644	1,306,965
営業利益	492,032	628,117
営業外収益		
受取利息	259	389
受取配当金	4,115	4,160
為替差益	23,753	44,017
受取保険金	6,963	17,102
雑収入	29,829	21,310
営業外収益合計	64,921	86,980
営業外費用		
支払利息	23,784	21,362
雑損失	927	4,207
営業外費用合計	24,711	25,569
経常利益	532,243	689,527
特別利益		
負ののれん発生益	92,765	-
特別利益合計	92,765	-
税金等調整前四半期純利益	625,009	689,527
法人税、住民税及び事業税	139,120	162,553
法人税等調整額	38,080	143,572
法人税等合計	177,200	306,126
少数株主損益調整前四半期純利益	447,808	383,401
四半期純利益	447,808	383,401

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	447,808	383,401
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12,660	33,050
繰延ヘッジ損益	2,391	△35,649
その他の包括利益合計	15,051	△2,598
四半期包括利益	462,860	380,802
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	462,860	380,802
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	5,612,839	2,429,377	8,042,217	—	8,042,217
セグメント利益	452,129	252,916	705,046	△172,803	532,243

(注) 1 セグメント利益の調整額△172,803千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費179,678千円、営業外収益21,141千円、営業外費用14,266千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間に株式会社向井珍味堂を連結子会社としたことを主因として、前連結会計年度の末日と比較して当第3四半期連結会計期間末の「食品事業」セグメントの資産の金額が912,434千円増加しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	6,168,325	2,858,014	9,026,339	—	9,026,339
セグメント利益	620,040	242,703	862,743	△173,216	689,527

(注) 1 セグメント利益の調整額△173,216千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費205,636千円、営業外収益45,218千円、営業外費用12,797千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「水産事業」セグメントにおいて、永屋水産有限会社の全株式を取得したことにより、新たに連結の範囲に含めております。これにより、のれんが91,413千円発生しております。